

様式第1号（第5条関係）

会議概要

会議の名称	第4回久喜市生涯学習推進会議
開催年月日	令和2年2月19日（水）
開始・終了時刻	午後2時00分 から 午後3時50分 まで
開催場所	久喜市教育委員会 会議室
議長氏名	平 忠昭
出席委員（者）氏名	明石實正、飯島栄治、伊東堯司、井上日出子、金子雄司、川島 孝、平 忠昭、田沼勝子、長島一枝、原嶋憲二、古谷郁男、宮内 智、諸橋美津子
欠席委員（者）氏名	後藤悦子、杉田栄子、朝武紀雄、丸礪正樹、丸山道子、森田剛夫、山谷博
事務局職員職氏名	渡辺生涯学習課課長補佐、尾柴主任
会議次第	○第4回久喜市生涯学習推進会議 （1）第10回生涯学習研修大会「まなびすと久喜」の報告について （2）久喜市生涯学習推進会議と生涯学習推進部の組織一体化の検討について
配布資料	・第10回生涯学習推進大会「まなびすと久喜」について（大会概要）資料1 ・久喜市生涯学習推進会議条例 資料2 ・久喜市生涯学習推進会議規則 資料3 ・久喜市生涯学習推進部規則 資料4 ・久喜市生涯学習推進会議幹事会規則 資料5
会議の公開又は非公開	公 開
傍聴人数	0 人

様式第2号（第5条関係）

審議会等会議録

発 言 者	会 議 の て ん 末 概 要
尾柴主任	<p>皆様、こんにちは。定刻になりましたので、ただ今から、第4回久喜市生涯学習推進会議を開催いたします。</p> <p>本日は、お忙しい中、ご出席をいただきまして、ありがとうございます。私は、本日の司会を務めます、生涯学習課の尾柴と申します。どうぞよろしくお願いいたします。</p> <p>ただ今、13名の出席をいただいておりますことから、「久喜市生涯学習推進会議条例」第5条第2項に基づきまして、委員の過半数以上の出席になりますので当会議が成立することをご報告いたします。</p> <p>なお、本日は、後藤委員、杉田委員、朝武委員、丸濤委員、丸山委員、森田委員、山谷委員から所用のため、欠席する旨の連絡をいただいております。それでは、はじめに、平議長からご挨拶をお願いいたします。</p>
平議長	＜議長あいさつ＞
尾柴主任	ありがとうございます。続きまして、渡辺生涯学習課課長補佐からあいさつを申し上げます。
渡辺課長補佐	＜課長補佐あいさつ＞
尾柴主任	＜配布資料の確認＞
尾柴主任	<p>もし、お手元に資料がない方がいらっしゃいましたら、事務局までお申し付けください。</p> <p>それでは、次第に従いまして、議題に入りたいと思います。議事の進行につきましては、久喜市生涯学習推進会議条例第5条第1項の規定に基づき、平議長をお願いいたします。よろしくお願いいたします。</p>
平議長	それでは、（1）第10回生涯学習推進大会「まなびすと久喜」の報告について、推進部委員長の宮内さんから、ご報告をお願いします。
宮内委員	<p>推進部の宮内でございます。第10回生涯学習推進大会「まなびすと久喜」のご報告をさせていただきます。</p> <p>お手元に資料1、第10回生涯学習推進大会「まなびすと久喜」について（大会概要）をお配りしておりますのでご確認をお願いします。</p> <p>第10回「まなびすと久喜」は、主催「久喜市生涯学習推進会議及び第10回「まなびすと久喜実行委員会」でございます。今回から後援ではなく、共催「久喜市教育委員会」という形になりました。2月1日と2日の両日、鷺宮西コミュニティセンターと隣の鷺宮体育センターにて開催されました。推進会議の皆様にも実行委員及び当日ボランティアとして協力をいただきました事に対してお礼を申し上げます。その他実行委員として市民大学生の皆さんを始め、当日ボランティアとして中学・高校・高大生・市大校友会・高大校友会・一般の方々、加えて生涯学習課の職員の皆さま方のご協力により無事に終了しました事に対して感謝申し上げます。</p> <p>第1日目は、市長・副議長・梅澤県議・教育長を迎え開会式を行いました。その後、基調講演とパネルディスカッションが行われました。元女子栄養大学非常勤講師の小松智子先生による「明るい笑顔で今日もい</p>

い日」のテーマのもと、そしてサブテーマとして「今日いいことあったかな。明日もいいこと考えよう」でお話をいただきました。内容を申し上げますと、まず第1に健康一番ということで、先生も毎日、ラジオ体操を実施して、ラジオ体操の歌も歌っているということでございます。2番目に健康の基盤として、3回の食事、特に朝食を大事にしてくださいということで、腹八分目と言いますけれど、七分目で良いのではないかとの話もありました。そして、適度の睡眠ということで、健康の基盤を作っていくというお話でした。3番目に久喜市食育推進大会のビデオを見ながら、大会の様態等について具体的に説明をしていただきました。結論的には、多くの仲間たちと協力してお互いに助け合った生活をして、元気を維持するには、健康が一番大切とのお話であったように思いました。

また、次のパネルディスカッションは、鷲宮高校生徒会長、地域コミュニティの副会長、障がい者スポーツ指導協議会会長、久喜市活性化推進協議会会長と基調講演の小松先生を加えた5名で行われました。そして、影山副本部長の司会で大会テーマ「学びでつながる・愛するわが街・仲間たち」のテーマにそって各々意見を発表していただきました。久喜市は生涯学習が盛んであるので良い方向性を次の世代に引継ぎをする。それから、SDGsの実践を推進しようということです。これは、持続可能な社会を実現するための開発目標という、国連サミットで採択されたもので、17の目標と169のターゲットで、2030年までにこれを達成しようという目標です。こちらに基づきまして、私も色々と小学校に携わっていますけれど、久喜小学校の生徒さん、それから埼玉りそな銀行の久喜支店の中にも、この案内と申しますか、掲示をして、この啓発に努めていました。是非皆さんも、これに興味を持っていただいて、色々と環境問題等について、考えていただければと思います。

それと、久喜市の良い所をもっと生かそうという話、それから障がい者への多くの皆さんに協力が欲しいと、そして久喜市も、もっと障がい者の大会に対して、協力をいただきたいというようなお話がありました。この東部地区の会長さんも、やられているようですけれど、羽生と加須等ですと、200人集まるのに、久喜では数十人集まるのがやっただという大会のお話もありましたので、是非、障がい者の皆さんへの、ご協力をお願いしたいというお話がありました。そして、体育センターで行ったのですが、ボッチャの大会等も久喜市で開催して欲しいという話もありました。久喜市の活性化の方は、もっと若者を育みながら町おこしの推進をして欲しい、それと自然栽培の無農薬農業の推進なども是非やってほしいというお話でした。また、高校生の方は、運動の実践と睡眠時間の確保、携帯電話依存者の防止などについてお話がありました。全体として、「わが街の学び」と「健康な仲間」を作るという様々な大変有意義なご意見をいただきました。

聴衆の皆様方が生涯学習として、知識の習得とその目標に向けての学習を目指し、学校・家庭・地域が一体となって活動していくことが大切だと思われました。多くの皆さんが、明るく笑顔で楽しく、健康で毎日過ごせれば大変幸せなことだと思われました。こちらが、第1日目の講演とパネルディスカッションのお話でした。

続きまして、2日目のイベントについてです。大会2日目は天候に恵まれましたが、冬の季節風が強く、屋外担当者と駐車場担当の方々は大変だったと思います。来客、参加者の総数は2,800名程度と実行委

員長から承っております。

イベント内容は、今回は鷺宮西コミュニティセンターと体育センターと離れた会場のため、出展者の配置に苦労がありました。屋外は、肉まん・いそべ焼き・ぜんざい・ピザとコーンスープ・焼きおにぎりを提供しました。当日調理を行う食材の提供は今回実施されませんでした。

発表会はステージにて、ゆうゆうの子供達を始め、例年出演していただいている方々と今回は特に鷺宮地区の開催の為、鷺宮中学校の郷土芸能部による神楽の「さかき」の演舞と久喜北陽高校チア部によるチアダンスが目玉となりました。

各イベントは、おもちゃの病院の鉄道模型体験、干支のネズミの折り紙作成、中島敦の会の展示案内、ゆうゆう23校のパネル展示、校友会の活動紹介パネルが展示されました。またエントランスではコーヒー等の提供とパンやクッキーの販売を実施しました。また、啓和寮の味噌の販売も併せて行われました。

体育館では、吹き矢体験、輪投げ、ボッチャ、カーリングなどのスポーツ体験が行われました。その他に、ロボット操作、手話サークルの実践、久喜市観光ボランティアの啓発案内、作って楽しもう「おもしろ工作」の作成、また、ロビーではオリンピック・パラリンピックの案内掲示が行われました。

体育館には、ストーブ2台を設置しましたが、会場全体を暖めるにはいかず、ご苦労された内容であったと思います。

問題点についてですけれども、推進部委員を始め、市民大学生の人員が少なく、かつ高齢化しており、実行委員会を開いても不参加者が多数おりました。今回行われました鷺宮西コミセンは、6年前に第4回大会ということで行いました。その時は、実行委員は89名でしたが、今回は52名ということで、37名も減少しているのが、現状でございます。このようなことから、各フロア一長は大変苦労されたことと思います。特に駐車場担当は鷺宮西コミセン、それから体育館の駐車場を両方合わせても、100台が限度でございまして、近隣の鷺宮高校、恒寿苑、保育園、農協、鷺宮西中学校など多数の施設の借り入れを行いました。そのための人員配置は50名以上に及び、ボランティアの配置など運営状況に大変苦労がありました。

資材の準備においても、鷺宮西コミセンと体育館には備品類が少なく、不足分は、菖蒲のアミーゴ、鷺宮東コミセン、鷺宮公民館、中央公民館、鷺宮西中学校など10か所以上から借り入れを行い賄った所です。

生涯学習課職員の方々の協力により車の手配は出来ましたが、補助員の配置にも手数がかかりました。これらの準備処理は、各フロア一長が自宅でのパソコンにて行っている現状にあります。前回までの各イベントの内容はUSBメモリーの内容で確認できますが、施設が変わればおのずと準備する資料等が異なってきます。イベントの内容確認には打合せができる場所が必要だと思います。

今後の「まなびすと久喜」の開催については、次回は、菖蒲のアミーゴを現在予定していますが、資材と駐車場等の施設事情を考えますと中央公民館等、ある程度の資材活用ができる場所での開催を行う事が良いのではと考えます。本来ならば生涯学習センターが、昨年の4月に理科大学跡地に設置されることで、この様な問題は解決するはずでした。その後の市役所の計画を聞くところによると現在建築予定の給食センター

	<p>等の建設後に改めて理科大学の整備計画に携わるのではないかとの話であり、あと数年後にやっと計画が出てくるのではとの話題となっているのが現在の状況の様です。</p> <p>この様に「まなびすと久喜」の開催に対して、数々の問題が提示されています。冬の2月の開催時期と各会場巡回問題、それに加えて予算の減額など事業そのものの継続についての対策を考えなくてはならない事がたくさんあります。この問題については、生涯学習推進会議の皆様のご意見を聞きながら、より具体的な対策についての検討を実施して解決結果を出していくことが必要ではないかと考えています。</p> <p>以上、今回「まなびすと久喜」の実施の報告とさせていただきます。</p>
平議長	<p>ありがとうございました。明石委員の方から、補足はありますか。</p>
明石委員	<p>推進会議の委員でもあり、推進部の委員でもある明石實正です。私は資材担当として、備品をメインに扱いました。11か所の調達先から、机を40台、椅子を数十台、それから、テントを持って来るなど、色々な形で移動が多くて、そのために現在27名の実行委員がいるのですけれど、重労働ができるのが男性だけで十数名という状態です。皆さんフロア一長を兼ねながらの作業なため、実際には2月1日から2日まで、2日間かけてやるのですけれど、1月31日の朝から、夕方までかけて、備品を搬入するという状態です。とにかく、後継者が入ってきてもすぐ任期内で辞めてしまいます。実際には、皆さん方が、入ってきても戸惑うわけですね。そうすると、これから推進部として、考えていけないといけないことは、たくさんありますが、とりあえずは、皆さんで資料を基にして、打ち合わせができる活動拠点、そのようなものを早急に準備しないといけないというのを、今回痛切に感じたことであります。以上でございます。</p>
平議長	<p>はい。ありがとうございます。その他に実行委員として参加していただいた方で、何かございますか。</p>
田沼委員	<p>推進部委員の田沼と申します。過日、推進部会で「まなびすと久喜」の反省会というか会議を行いました。今回「第10回まなびすと久喜」は、成功裏に終了いたしました。ただ、各フロアから、多くの課題が出ています。例えば、会場のエントランスなども狭かったから、ゆうゆうの配置も大変だったということもありました。また、駐車場もすごく分散してしまい、駐車場係の方もやりくりが大変でした。資材担当も、今、お話しがありましたように、調達が多かったです。あと、中には、本当に古くて使えないような備品などもあって、結局は使わなかったという話もありました。あとは、推進部委員も人数がすごく減少しています。そのような中でやりくり、また、委員の方も高齢化しております。そのようなことを考えたときに、色々と課題を洗い出した時点で、推進部の中で、解決できる課題もあります。ただ、推進部だけでは、解決できないような課題もあります。そのような中で、やはり、皆さん、生涯学習センターというところで、やればいいのかではないか。4地区回ることによって、4地区の皆さんに参加してもらえるとという利点もありますけれど、やはり、色々、メリット、デメリットを考えると、やはりそのような場所が必要かなという意見もたくさん出ています。推進部の中で解決できる課題もあるのですが、市へ推進部、推進会議として、要望書なども、今回の「第10回まなびすと久喜」の実態を踏まえてお願いするというのを是非していただけると、推進部を継続していくのに非常</p>

	に大切なのかなと思います。
井上委員	全く同じです。思うところは一緒です。このまま、この「まなびすと久喜」は継続できるのかなという不安はあります。
古谷委員	私は、6年位前に、推進部に2年間お世話になりました。その時ちょうど菖蒲のミーゴで開催するという時だったので、2年間やらせていただいて、その後は、やっていなくて、こちらの推進会議でお世話になっています。推進会議委員になってからは、実行委員という形でお手伝いをしているのですが、念願の生涯学習センターをとということで、ずっと思っていたのですが、それが、なかなか実現しないと、先程の話の中にも、活動拠点というのが大事であるというのが、ずっと出ています。この拠点があると、皆さんもやり易いのかと思います。それから、今回はお手伝いをして、資材の場所が10か所以上ということでした。寒い中、そのような中でやってらっしゃるので、資材の場所だけでも、活動拠点として借りられれば違うのではないかと思います。
原嶋委員	長年この事業には携わっているのですが、今回は備品の搬入と搬出が非常に大変だったと感じました。曲がり角に来ているのではないかと思います。生涯学習センターができるというのが、見えているのであればいいのですが、見えてない中で、行き詰っているというか、何かいい解決方法があればという思いでいます
平議長	はい。ありがとうございます。当日ボランティアとして参加していただいた皆さんから、何かご意見ございませんか。
金子委員	2日間お疲れ様でした。私は、推進部の委員長を宮内委員長の前にずっとやっておりまして、ちょうど合併して、このシステムを皆さんと相談して考えたのですが、合併した時に久喜地区は、生涯学習が進んでいるけれど、他の3地区は、久喜地区に比べると、そこまで進んでいるとは言えないということで、会場を持ち回りにしました。その時には、推進部は2年で交代しますので、1年入った時には中央公民館で行い、2年目で他の3地区を回ると、そのような体制で整えてきました。今度は、中央公民館も4年に1回、そのようなシステムになっていったと思いますけれど、始めた頃と比べると、他の3地区も生涯学習が浸透してきたと思っております。これは、平議長、宮内委員長のご尽力だと思っております。実際にこれから、活動していく時に、推進部のメンバーも減ってきているということです。市民大学の学生も減っているし、色々なところに呼びかけをするということも大事だと思いますし、先程、原嶋委員がおっしゃいましたけれど、生涯学習センターはいつできるのか、分からないので、とりあえず、今のシステムで動くしかないし、あと時期の問題は、旧久喜市の時から問題になっています。冬は寒いから変えたほうがいいとか。皆さん、今現在これがあるから、人が来るというのは何だと思えますか。これは、ゆうゆうプラザの子供達が参加するというのが、1番集客が見込めるわけです。親子で結構来ます。あれを外すと、大人だけになってしまうので、そのようなことを考慮する必要があると思います。実際にパネルとか、展示物等を考えて、ゆうゆうプラザのことを考えると、時期をいつにするのか、関係者の方も本日は何人かいらっしゃいますけれど、推進会議、推進部の皆さんで相談されたほうがよろしいと思います。ちなみに、ゆうゆうプラザは6月に始まりますので、その辺に「まなびすと久喜」を開催すると、多分、ゆうゆうプラザは全面的に手を引く可能性があると思います。あと、パネ

	<p>ルを作りますけれど、パネルは4地区に事務局が運んで行って、その後、公民館まつりでも、パネル作品等を展示する場所がありますので、時期を考えるとときには、考慮したほうがよろしいと思います。あと社会教育委員のほうに、願わくは、「まなびすと久喜」は、今年はこんな感じで開催しますということで情報をいただきたい。社会教育委員の会議は11月と1月にありますので、その時に資料をいただければ、社会教育委員20名全員に情報提供していきたいと思いますので、よろしくお願ひしたいと思います。以前3団体、推進会議と推進部と社会教育委員で合同研修を開催しておりましたけれど、お互い連携を取るのが大事だなと強く感じた次第です。「まなびすと久喜」と「まなびすとフォーラム」は、永遠にやりたいと思います。生涯学習の街ですから。</p>
<p>長島委員</p>	<p>毎回、合併してから、「まなびすと久喜」には、ボランティアとして、毎年参加させていただいております。皆さんのご意見と同じように、「まなびすと久喜」を継続してやっていることがすごいなと思っております。また、金子委員長からお話があったように、ゆうゆうの発表の場になっているのかなという感じもしております。高齢化の問題もありますが、みんなで良い知恵を出し合って続けていけたら良いと思っております。</p>
<p>平議長</p>	<p>はい。ありがとうございます。今回「まなびすと久喜」に参加していない委員の方もご意見等ございますか。よろしいですか。今、意見を出していただいた方々の話を聞いていますと、宮内委員長の方からは、実施の非常に良かったところを全面に出していただきました。ただその後、やっぱり苦労話がずっと多くて、全体を10とすると、成果が3、苦労話が7みたいな感じの総括ではないかなと思います。その中で発言した委員の中で、共通していたことは、一か所でやっていく場所を早くしなければならぬという事でした。これは、前々からの課題ですね。宮内委員長が先程言いましたように、本来は去年の4月1日から、何らかの形でできたわけですが、それができていないという事が最大の問題点であるわけです。皆さんの中にも早くという想いがあると思います。実は、同じように2月14日に推進部の中で、「まなびすと久喜」の終わった後の話し合いをしました。その中で、出た意見を私なりに簡単に申し上げますと、やはり共通したものがたくさんあるのですが、5～6点申し上げますと、やはり開催場所が決まっていないので、非常に困るということです。展示場所、特に発表会に参加していただく方は、更衣室の問題があります。それから休憩所、販売する場所、先程、田沼委員からもお話がありました。場所が狭いと、販売するところに支障をきたすといったこともあります。それと、資材の問題が一番大きかったと思います。例年、鷺宮地区で行う以外は、せいぜい8～9か所位から資材を調達するのですが、今回は11か所から調達しました。それだけ、鷺宮西コミュニティセンターと鷺宮体育センターには備品が揃っていないということです。今回は2か所に分けて実施したということで大変だったということです。それと駐車場の問題です。合計9か所に分けて、選定しなければならない。そして、その各駐車場に人員を配置しなければならないので、人数がかなり必要になるわけです。ところが、人が足りないという現実があります。それから合併して、もう10年になりました。当初の目的は、合併して4地区の住民の皆さんが交流ということを目的にやってきましたが、概ねそれは達成できたということで、ここで変えていかなければならないということがあります。そこで、どのよう</p>

	<p>なことをしたら良いのかということですが、毎年同じようなものになってきている。金子委員からお話があったように、ゆうゆうプラザがなければ、観客が少なくなる恐れもあります。したがって、やる方法を、生涯学習週間や生涯学習月間などして、今週は、演劇を1週間やっているよとか、来週は文化的な行事として、書道や絵画とか色々な作品の展示などをやるなど。あるスパンの期間を設けてできるようなものにすれば、たった2日だけのものに限らず、多くの市民の皆さんが訪れるのではないかと思います。それから、講演会やパネルディスカッションにしても1日かけて、もっと長時間行ってもよいのかなと思います。そしてパネラー4人の方ですけれど、言いたいことがもっとたくさんあると思います。平均して80分から90分位ですから、1人の時間にすると15分位しかないわけです。これでは、自分の言いたいことも言えない。したがって午前中に基調講演を行って、午後パネルディスカッションを行うこともできるわけです。しかし、現実的な問題として、出来ないというのは、生涯学習を発表する場が、利用する場所がないというのが、最大の問題だということが、先日の生涯学習推進部の中で出ました。この後、皆さんにお聞きするのですが、生涯学習が行える場というものについて、意見交換をさせていただきたいと思います。ですので、議題(1)については他にご意見等がなければ、宮内委員長報告、そしてその他の委員の皆さんの報告として、一度終了させていただければと思いますが、いかがでしょうか。</p>
<p>宮内委員</p>	<p>先程ありました資料の問題ですけれど、各公民館とか施設にある資料が傷んでいるというのは、市のほうへ要望して、どんどん変えていただかないと、使い物にならないわけです。体育館に20脚位、机があっても古くて全然使い物にならないわけです。また、菖蒲支所から持ってきたのも、重くて一人では運べないような机です。そのようなことから、各施設や公民館などに変えていただきたいという要望を是非、提出したいという事を思っております。</p>
<p>平議長</p>	<p>はい。分かりました。「まなびすと久喜」について、生涯学習推進会議の委員の皆さんの中から、実行委員として、参加していただいたのは、原嶋委員と古谷委員の2人に参加していただきました。それから当日ボランティアとしては、金子委員や長嶋委員他5名の皆さんに協力していただきました。ご協力に対して感謝申し上げます。</p> <p>それでは、議題(2)久喜市生涯学習推進会議と生涯学習推進部の組織一体化の検討について、これも先程とは無関係ではないのですが、これは、前から出ていることでして、この経緯を言いますと、昨年9月13日に第3回の生涯学習推進会議が開催されました。その中で話し合われまして、その時に内容につきましては、皆さんが、推進会議の委員として委嘱されているのは、9月1日付けです。一昨年9月1日付けで委嘱されているわけです。任期は今年の8月31日までの2年間です。もう一つの推進部は、7月1日付けで委嘱をされて、任期は今年の6月30日までです。そこで、今日の資料の中で、生涯学習推進会議条例第3条の中で、定員は20名と定められています。委嘱は市長なのですね。まず、それが1点です。次のページをご覧ください。第7条です。推進会議が策定した基本的な実現に向けて、市民の意見、要望等を取り入れ、市民の手による生涯学習の推進を行うために、生涯学習推進部を置くとい</p>

	<p>うことになっています。ここで次の2年間の生涯学習の指針を決めたものを、推進部のほうに実行をお願いしようということになるわけです。それで資料4で、久喜市生涯学習推進部規則です。そちらをご覧ください。そこに第2条、推進部は、次に掲げる事項を所掌するということが、記載されています。それで第2項のところ、推進部は委員40人以内で組織するとあります。そして任期は2年です。推進部の皆さんの仕事は、この推進会議で、決まった指針を実行に移すということです。ところが、推進会議の皆さんが選ばれるのは、推進部の皆さんが選ばれた後です。ということは、まだ指針が出来ていないわけです。2か月空欄になっているのです。このような矛盾があるわけです。定員が推進部は40名ですから、推進部のメンバーは決まっているわけですが、推進会議の20名は、2か月後に決まったわけですね。</p> <p>年度というのは、4月1日から翌年の3月31日までですから、そのほうに戻さないといけない。そうすると、どこかで3月31日までということを行わなければいけないわけです。これは極論ですよ。このようにするという意味ではなくて、例として、ここで皆さんが、そうだよねと、そしたら私たちの任期、3月31日で終わろうということに、なったとすると4月1日から8月31日までは任期がないのですよ。そのようなことも起こりうると、必ず起こりうるのですね。これは、推進部の人も推進会議の人もそのようなことで、これは理解していただきたいということなのですね。そのために、何をしなければいけないのかというのは、9月13日に議論したのですけれど、2つあって、実際には推進会議は、推進部のやってくれたことを追認するだけなのですね。この際、スタート時点に戻そう。そのためには、2つある規則と条例を一本化しようじゃないかということです。ただ、その時には、原嶋委員が前回の会議で言われたのですけれど、推進会議の仕事そのものを失っては駄目だということ、これは当然のことだと思います。そのようなことも考えて、人員も含めて、これでいくと最大40人になるわけですね。一本化した組織に改められないかどうかをこの9月から、今まで検討して参りました。9月には、もう「まなびすと久喜」の実行委員会があって、それにかかりきりでしたので、はっきり申し上げまして、9月の後に実際に検討したのは、2～3回ですが、そのようなことなのです。従って、これを一本化するために、どのような問題があるのかどうか、それを事務局のほうで検討していただきましたので、それがまず可能かどうかについて、生涯学習課から、分かる範囲で結構ですから説明していただければと思います。</p>
尾柴主任	<p>まず資料2をご覧ください。本日お集まりいただいている生涯学習推進会議の皆様は、生涯学習推進会議条例第1条に基づきまして設置されている審議会でございます。審議会というのは、本日の会議もテープで会議録を作成しまして、市のホームページに掲載するというのが審議会であるのですが、それを推進部と推進会議の関係、資料で言いますと資料2～5までのこの組織を、一回白紙にしまして、新たな組織の条例を作って、立ち上げるということだと思います。審議会を担当しているのが、市役所の市民生活課でございます。審議会を廃止するのは、書類1</p>

	<p>枚で、審議会の附属機関廃止報告書というものを市民生活課のほうに提出後、市民生活課の内部で決裁できれば、書類上、組織は廃止すると思うのですが、今度新たに設置する、仮称で「協議会」だとしますと、協議会を作るには、新たにまた1から、この資料2から5までの規則等を一つにして、条例を作らなければいけないのですけれど、条例を作るといのは、なかなか難しいもので、まず条例の素案を作成しまして、庶務課に例規審査ということで、この条例を見てもらって、その例規審査も何か月か期間がかかり、その例規審査を終えてから、教育委員会の内部で決裁後、条例なので議会案件になるわけですが、議会議決後、新たに組織を立ち上げるわけですが、物理的には可能だとは思いますが、今言ったような手続きを経るので、少し時間はかかると思っておりますが、物理的には可能であると思っております。</p>
<p>平議長</p>	<p>今、説明していただいたように2つの組織を1つにまとめるということは、可能ではあるということなのです。ただ時間がかかる。従って、例えば4月1日以降にできるものとは私も思いません。ですから、再来年ですよね。再来年度位からは、新しいものができる形で進めるために、皆さん9月13日以降の結論を今日ここでまとめていただいて、作業をしていきたいと思っておりますが、よろしいでしょうか。もう一回言いますと、この9月13日に決まった、2つの組織を1つにまとめるために、今、事務局から説明があった手続き行い、そして新しい組織に変えていく。ただ、そのための時間は、何か月とか何年とは申し上げられませんが、それなりの時間はかかるということを知って行うということで、いかがでしょうか。そうすると、委嘱の問題。実際に我々は、市長から委嘱されていますけれど、実際に行っていることは、教育委員会の下でやっているのです。ですから、委嘱も教育委員会から、されたほうが良いと思います。そのように内容も改めて、提案も作成して、議会に提出していただいて、新しい組織に変えていく。発展的に改訂していくということです。もう一度、整理すると、委嘱期間の問題を解決する。それから、推進会議が作成したものを推進部が行うというのがタイムラグで実際には行われていない時間もある。そのようなことを解消するために、推進会議と推進部が一体になってやっていけば、そのようなこともなくなりますので、発展的な良い組織にしていくという形で、人数も20人ではなくて、40人位の組織に出来ればと思いますから、皆さんがよければ、そのように検討して、進めてなるべく早く、出来れば皆さんの任期内に、素案が提示できるように、我々と事務局と頑張りたいと思っておりますので、そのメンバーも皆さんが了承していただければ、委任していただいて、4～5人の皆さんと共に、原案を作成してお示したいと思っておりますが、いかがでしょうか。</p>
<p>川島委員</p>	<p>ちょっとその前に確認したいことがあります。そもそもこの2つの組織は、行政主導で作られているわけです。それが、この2つの組織の委員である我々が、組織の根幹を今、色々変えようとしているわけですね。はたして、そのようなことが、可能なのかどうか。出来ないことを一生懸命やって、何年もかかってやっても、最後に採用されないというふうなこともないことでして、そのへん、一番困っているのは、我々の任期よりも事務局の異動サイクルが早いことです。だから、事務局は、前々から2つの組織の問題については、問題意識を持っているわけです。ところが、異動サイクルが早すぎて、変えるという時間がないわけです。2年位で変わってしまいますから、我々のほうが長いわけです。だか</p>

	ら、そのようなこともあって、むしろ事務局がこの問題について、どのように考えているのか、今、議長がおっしゃったように進めて、全面的に事務局がバックアップしてくれて、一緒に進んでくれるのかというのがなければ、そのへんをおさえて、進めないと、無駄なことをやっていることになるということです。
平議長	はい。そのとおりです。先程も言ったように9月の会議から今日まで、事務局と取り組んできました。先程、事務局からありましたようにできると。市民生活課が所掌しているそうです。できるという結論になったわけです。従って、この提案をしているわけです。
川島委員	できるとするのは、手続きができるけれど、承認されるかどうかという問題です。つまり条例として、条例というのは議決されなくては行けないわけです。
平議長	一応、できるとすることは、可能であるということ、我々は得ていますので、提案したということをご理解いただきたい。
金子委員	委嘱期間の関係は、旧4市町のときには、大体3月末で委嘱は終わっていたと思います。合併して事務局が大変で委嘱時期がずれていったわけですね。推進会議と推進部が3月委嘱になった場合に、社会教育委員は5月で任期が終わります。同じような歩調にしていくかどうか。あと、校長会などは、充職なので、大丈夫だと思いますけれど、そのあたりも事務局で相談してもらって、進めていくしかないと思います。
平議長	分かりました。
原嶋委員	生涯学習の委員の委嘱の関係で、市長委嘱で推進会議と推進部をやっていますよね。これを教育委員会のほうに戻して、教育長名で委嘱は可能かどうかということですが、ここを検討していただきたいのですが、生涯学習というと、市全体で取り組んでいる事業です。教育長が委嘱するとなると、社会教育なのですよね。狭い意味で言うと、そうすると、社会教育という名称になるのか、あくまで生涯学習でいくのか、そのところを検討していかないと、社会教育と生涯学習が混同してしまう、教育委員会の中で混同してしまうということも懸念されます。そこを検討していくべきだと思います。
古谷委員	私は公募で申し込みをしたもので、平議長がおっしゃった推進会議と推進部の任期の違いを一緒にしようと、活動内容が、提案するものと実践していくもので、これを一緒にやれるといいなというところは、すぐ理解できるのですが、例えば、会議の回数や時間とか、今までの内容は踏襲していくとしても、そのようなところで、どうなるのかという不安はあります。それで、そのことは、これから事務局で相談していくことなのか、お聞きしたいと思います。また公募で、これは辞めようかなということも考えられるので、そのようなこともお聞きしたいと思っています。
平議長	会議の開催については、やっぱり効率のいい会議をしないといけませんので、回数を多くということはないと思います。今、推進部で行っている「まなびすと久喜」の会議も減らしました。基本的には、推進部がやっている会議に準拠するような、回数になるのではないかと思います。平均すると、推進部の会議は月に1～2回です。その位にはなると思います。今の推進会議の年2回よりは、ずっと多くなると思います。それも実施要領の中で決めていくのかと思います。

金子委員	ちなみに、社会教育委員は、年6回会議をやっています。その方が推進会議の委員になるとそのメンバーは大変になると思います。
明石委員	色々話を伺っていて、少し違和感がある部分がある、古谷委員や原嶋委員が言われるところにあると思います。現実そんな推進部のように、何回も会議を行うのは、大変だというのは事実だと思います。我々も、「まなびすと久喜」をやる前には、毎週やっているわけです。それでないと間に合わないというのが現実です。私のもう一つの提案は、一つやりたいと思うのは、一本化するというのを、前提に考えるわけですが、推進部の中でも、先程の宮内委員長からの説明にもありましたが、マンネリ化ややり方の限界にきているのではないかとこのことがあります。それも含めて本当に一本化するのがいいのかということも議題ではないのかと思います。一本化することによって、今までの推進会議のメンバーの方はもっと、出なくてはいけない。私の思っていた推進会議ではないということになるかもしれません。それで、推進部からすると、そんなに回数を減らされたら、実際にやるときに出来ないということになるのではないかと思います。それが、意識の違いと言ったら悪いかもしれませんが、そのような形で参加をしているわけではないよという考えの方もいるのではないかと思います。そうすると、一本化ということ前提にするわけですが、まず委嘱時期は、一つでない、まずいというのは、従来からあると思いますが、だけど、実際に物事をやること、方針を出すこと、それは別でもいいのではないかとこのことも含めて、検討課題にしてはいかがでしょうか。
平議長	はい。考えていることはそのとおりです。毎回40人集まって行うということは、全く考えておりません。
金子委員	今の件は、何回か検討委員会等で具体的な話は進んでいるのですか。
平議長	まだ、2～3回話し合っただけで、これを素案として、今後4～5人位で検討してもらい、できるのか出来ないのか分かりませんが、任期前に新しい組織としては、こんな形でどうかというのを提示するのが、良いのかと思っております。
飯島委員	私も、古谷委員と同じように公募で推進会議に参加するようになったのですが、一本化という問題は良しとするとしても、推進部の会議の回数、それから、推進会議の会議の回数が、大きく違うということが問題です。それと、一本化するにあたって、実際に素案を行政に出して、それが実際に動き出すには、ある程度の時間がかかるわけですね。その間の期間、今の現状の各委員さんをどのような立場で、また、引き続いてやってもらうのか、ある時点で、一本化のための委員だけに絞ってやるのか、そのような問題も含めて、すごく複雑になるし、それと、ある程度の年齢的にも、熱意がそこまで続いていくのかなというのが、一番自分自身は思っているのですけれど、そのようなところですね。
平議長	はい。飯島委員おっしゃったとおりです。今の皆さんは、現状の規則で、動いていくわけですから。それは変わりません。ですから、任期は8月31日まではあるわけです。かといって、9月1日以降すぐに、新しい組織になるとは思っておりません。先程申し上げたように、最低でも1年、だから早くできたとしても、再来年以降だと思います。それも無理かもしれません。ですから、やっていくことは今まで通りです。
宮内委員	今、川島委員、飯島委員や古谷委員の皆さんからお話ありましたように、推進会議と推進部そのものでは、内容が違うわけです。あくまで推

	<p>進会議で指針を決めて、推進部はそれを実行する部隊ということですから、当然、会議の時間も多くなりますし、「まなびすと久喜」を開催するには、実行委員会や幹事会をやっていますが、これだけで、10回以上やっています。それでも間に合わなくて、各フロア一長を集めてやっていますので、皆さんからお話をいただいているように、このままで、今までの状態では、ちょっとまずいのではないかと、委嘱の時期を一本化するとか、推進会議と推進部との繋がりをもっと良くしていこうということで、一体化について議長がお話になっていますので、ただ、川島委員からのお話のように、本当に行政のほうが変わられるのかとか、あるいは、会議の日数ですね。回数の問題とか、色々これから出てくると思います。議長のお話に対しても、皆さんから意見が出るということは、実際に皆さんが色々と考えていただいているからだと思いますので、まだまだ、話し合いの段階ですので、これを継続して、いかにして、推進会議と推進部がどのようにやっていけるかということ、もう少し、時間をかけて、検討したらよいのではと思います。</p>
金子委員	<p>検討部会が立ち上がって、進めていった時に、今日の話の趣旨はどちらかという「まなびすと久喜」だけですよね。推進部のほうは、休んでいるのも含めて4部会ありますから、そのようなことも含めて、検討部会で相談してもらいたいと思います。</p>
平議長	<p>部会が3つありますけれど、3つの部会を含めてのもので。全体ですから。</p>
金子委員	<p>その辺を分かっている人とわかっていない人がいますから。</p>
川島委員	<p>今日は、具体案が出ると思って来たのですが、そうではないのですね。ワーキンググループを作って、これから検討をしようということですよ。それには賛成です。ただ、推進部の任期が6月末です。したがって、4か月で仕上げないといけませんよね。推進会議もその2か月後ですか。しっかり期日管理をしてもらって、進めていただきたいと思っています。</p>
平議長	<p>ただ、川島委員が言うように、メンバーが全く同じで委嘱されればいいのですが、大幅には変わらないと思います。目標は任期内にしたいのですが、時間の不確実なところというのは、あるということだけは、出来れば、推進会議の任期の8月以前には、1回は出したいと思っています。</p>
川島委員	<p>遅くても8月位ですか。</p>
平議長	<p>それくらいには、第1回目のものを出したいと思っています</p>
諸橋委員	<p>この2つの組織の整理をするということは、繋がりを持たせるということで、見直しをされるのは、すごくいいことだと思います。先程、話があった発展的に変えていきたい、マンネリを打破したいという話から、ちょっと提案ですけど、例えば、「まなびすと久喜」は、私は、ゆうゆうプラザに関わっている者とする、色々なパネル展示や発表などの場を考えると、開催時期というのは、最適な時期になるのですね。そうやってきて、例えば、マンネリを変えるということ考えたときに、「まなびすと久喜」と「まなびすとフォーラム」そのようなものを、例えば1つにまとめて、例えば2日間で開催しているのであれば、初日にフォーラムをやり、結構、大々的に集客がありますよね。そのような方たちにも、パネルの展示などを見ていただくと、かなり広がり</p>

	<p>が出てくるのかと思います。2日目には、「まなびすと久喜」で、色々と発表の場を見てもらえると、1日目に来ていた保護者や学校の関係者の方とかが、また次に足を運んでもらえるように、こちらでも働きかけられるのかなと思いました。</p>
平議長	<p>その通りです。さっきも言いましたように、「まなびすと週間」、あるいは、「まなびすと月間」ということで、その間で、そういったことを、やっていきたいと思いますというようなことも可能になってくるわけです。たった2日だけで、発表それから出店などを1日でやっているわけです。フォーラムというのは、半日でやっているわけです。それを、週間とか月間にすれば、おっしゃるとおり、今週は、「まなびすとフォーラム」をやりますよとか、第何週は、ゆうゆうプラザをやりますよとか、そのようなことで、市民にPRできる。そして今度は、その場があれば、出演、出品、やる人たちに、会場から何から、自分達の思うとおりに作ってください。そうすると、我々のほうの、手間がかからない、そういったことも考えていくわけです。これだけの資材があります。これだけの資材を利用して、やってくださいという条件で。それで足りなければ、持ち込んでください。終わりの時は現状復旧してくださいと。第三者的といいますかね。我々は、お貸しする立場ですよと、指定管理者制度みたいなですね。そのような近い考え方もできてくるだろうと、やるよとか、やらないじゃなくて、そのようなこともあり得るよと、その中で検討して、一本化していければと、そういったことも頭の中にはあります。</p>
宮内委員	<p>本来、先程申し上げたように、去年の4月には、こちらに生涯学習センターができるといったような場合に、今、諸橋委員がおっしゃったような形の、ゆうゆうプラザとか各団体の社会教育団体など色々やっているイベントも、「まなびすと月間」や「まなびすと週間」というところで、やるということは、生涯学習課の前任者とはずっと話をしていたのですが、これだったらこうやろうというところまでは、頭の中では、描いていたのですが、それがなくなってしまったので、従来どおり、「まなびすと久喜」などは、各会場を回っていきという形で今、来ているのが現状です。その辺を踏まえると、何とか早い時期に、一つの施設、場所で何でもできるということが一番望んでいることとございます。</p>
平議長	<p>はい。色々意見を出していただきました。ではそのような方向で、最終的にまとめてご提案します。一つの組織に一本化して、デメリットばかり多かったら、もちろん皆さんに、これは辞めますと報告しますが、良ければその旨を報告して、進めていくということのために、承認の方を人選して、検討していくということによろしいですか。</p>
委員	<p>(はい) の声あり。</p>
平議長	<p>はい。ありがとうございます。では、そのような方向で、進めていきたいと思っておりますのでよろしくお願い申し上げます。それでは、これで今日の議題は全て終わりになります。今日は、本当にお忙しい中、ご出席いただきまして、有意義な議論をしていただきました。本当にありがとうございます。</p>
尾柴主任	<p>皆さま、長時間にわたりありがとうございます。それでは、最後に閉会のごあいさつを原嶋副議長からお願いいたします。</p>
原嶋副議長	<p><閉会の言葉></p>

会議のてん末・概要に相違ないことを証明するためここに署名する。

令和2年3月18日

議 長 平 忠昭